

教えて! 外務省 / 知っておきたい 国際協力 ⑳



ユーラシア大陸のほぼ中央に位置する中央アジア・コーカサス地域。その特色や日本との関係について紹介します。

今月のテーマ

中央アジア・コーカサス地域

答えてくれた人



外務省 国際協力局 国別開発協力第二課 上席専門官 富岡久永 (とみおか ひさなが) さん
1987年、外務省入省。ミャンマー、アメリカ合衆国、南部アジア部、領事局などを経て2020年から現職。

Q1 日本にとって中央アジア・コーカサス*地域はどんな存在?

A1 地政学的に重要な位置を占め、資源が豊富。歴史的にも日本と深いつながりがある重要な地域です。

中央アジア・コーカサス地域は、以下の三つの点から日本にとって重要な地域といえます。
一つ目はロシア、中国、中東、欧州に囲まれ、地政学的に重要な点です。開発協力を通して同地域が発展し安定することは、日本を含むユーラシア地域全体の安定・発展につながります。
二つ目は経済的な潜在力です。域内各国はいずれも1991年に旧ソ連から独立しました。石油、天然ガスなどの鉱物資源が豊富な国が多く、日本にとって資源の供給元となるだけでなく、日本が開発協力を行うことで地域の経済力が高まれば、貿易・投資の相手国として強い関係を築くことができます。
三つ目は、歴史的に日本とつながりが深く親日国が多い点です。シルクロードを通して

仏教文化などさまざまなものが日本に伝来しましたが、これらの国々はアジアとヨーロッパをつなぐシルクロードの通過地域にあります。また第2次世界大戦後、この地域に抑留された日本人は厳しい環境下にあっても力を尽くして仕事をし、現在でも抑留者が建設した建造物が残っています。日本人の勤勉さが人々に感銘を与え、それが現在の親日感情の基盤になっている国もあります。
ODA (政府開発援助) は国益を追求するための重要な外交ツールであり、日本にとって重要な中央アジア・コーカサス地域の発展に貢献することで、この地域と日本との信頼関係、経済関係を強化しています。

* 中央アジア諸国にはカザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタン、トルクメニスタンが、コーカサス諸国にはアゼルバイジャン、ジョージア、アルメニアが含まれる。

Q3 具体的にはどんな協力を行っているの?

A3 地域に共通する課題と各国のニーズ、それぞれに対応した協力を行っています。

中央アジア・コーカサス地域は、エネルギー資源の有無により一人当たりの国民総所得が1万ドル近い国と1,000ドル程度の国とがありますが、地域共通の課題も多く存在します。その解決に向けて老朽化したインフラの整備や市場経済化、持続的で安定した経済および社会発展のための国づくりへの協力などを実施しています。
旧ソ連時代の老朽化した経済インフラ整備協力として、発電所建設、道路建設、水道建設などを行っています。またバランスのよい社会発展に向け、保健・医療分野でも国際機関と連携した母子保健強化、安全で衛生的な飲料水へのアクセスを可能とするための給水改善計画などを実施しています。今般の新型コロナウイルス感染症の拡大をふ

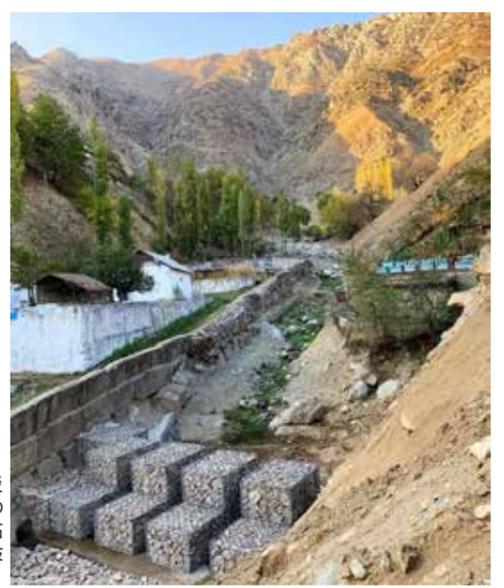
まえ、中央アジア・コーカサス地域のほぼすべての国に対し、保健・医療関連機材の供与を行い、各国のコロナ対策に貢献しています。また、同地域の主要産業である農業分野についても、市場のニーズをふまえた農業の多角化支援、灌漑機材整備や貧困農民支援などを行っています。
一方で防災、気候変動対策、国境管理強化に関する協力などは、各国ごとのニーズに応じたきめ細かい協力を行っています。地震による被害が多いアルメニアやトルクメニスタンに対しては、技術協力による地すべり対策や地震モニタリングシステムの改善を実施。キルギスでは無償資金協力による雪崩対策、タジキスタンでは災害に強い道路管理での技術協力を行っています。環境分野で

は、旧ソ連時代の化学工場の廃液流出による河川の水銀被害が起きているカザフスタンに対し、技術協力による環境モニタリングを行っています。「21世紀最大の環境問題」といわれるアラル海の砂漠化とそれによる塩害が起きているウズベキスタンでは、国際機関と連携して保健サービスの改善や貧困改善対策などを行っています。アフガニスタンと国境を接する中央アジア地域の国に対し、国際機関と連携して国境管理強化や麻薬対策などの地域協力もを行っています。
このように国と地域、それぞれに必要なとされている協力を行うことで、日本と中央アジア・コーカサス地域のつながりを強くすることができます。

水が干上がって砂漠化したアラル海 (MPHSTF for the Aral Sea Region in Uzbekistan 2019 Annual Fund Level Reportより転載)。



ウズベキスタンでの「カルシ-テルメス鉄道電化事業」では、従来のディーゼル方式よりも牽引力の高い電気方式への改良にJICAが協力。急勾配の山岳地帯を走る鉄道の輸送能力の向上に協力した。



タジキスタンでJICAが実施した「道路災害管理能力向上プロジェクト」。春季の雪解け水による洪水や、地すべり・落石などの道路災害に対応できる行政・技術面での復旧体制の構築に協力した。

シルクロードの時代から現代まで、日本とは深いつながりがある地域です

©DLE